

2.2 * 2024年 8月改訂 (第2版)

激な昇圧発作を起こすおそれがある。]

2.3 消化管に出血、穿孔又は器質的閉塞のある患者 [本剤には消化管運動の亢進作用があるため、症状を悪化させるおそれがある。]

9.6 授乳婦

と。

11.1 重大な副作用

11.1.1 ショック、アナフィラキシー (いずれも頻度不明)

ショック、アナフィラキシー (呼吸困難、喉頭浮腫、蕁麻疹等) があらわれることがある。

11.1.2 悪性症候群 (Syndrome malin) (頻度不明)

無動緘黙、強度の筋強剛、嘔下困難、頻脈、血圧の変動、発汗等が発現し、それに引き続き発熱がみられる場合は、投与を中止

3. 組成・性状

3.1 組成

販売名

プリンペラン細粒2%

1g中

有効成分

メトクロプラミド

15.35mg

4. (塩酸メトクロプラミドとして20mg 鋳鋳(塩)コL輔柱S賢慈 蘊慈蝶

○次の場合における消化器機能異常 (悪心・嘔吐・食欲不振・腹部膨満感)

胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胆嚢・胆道疾患、腎炎、尿毒症、乳幼児嘔吐、薬剤 (制癌剤・抗生物質・抗結核剤・麻酔剤) 投与時、胃内・気管内挿管時、放射線照射時、開腹術後

○X線検査時のバリウムの通過促進

6. 用法及び用量

メトクロプラミドとして、通常成人1日7.67~23.04mgを2~3回に分割し、食前に経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

7. 用法及び用量に関連する注意

1日あたりの製剤量は以下のとおりである。

1日投与量

塩酸メトクロプラミドとして10~30mg、細粒:0.5~1.5g 輪鯉絳 鬲易侘 丟爪变 岑匕獻璨輩玉樺翠SM 疾 芋茸ゲ)

8.1 本剤の投与により、内分泌機能異常 (プロラクチン値上昇)、錐体外路症状等の副作用があらわれることがあるので、本剤の投与に際しては、有効性と安全性を十分考慮のうえ投与すること。

眠気、めまいがあらわれることがあるので、本剤投与中の患者

には自動車の運転等危険を伴う行為を慎み、腎機能障害患者9.2高い血中濃度が持続するおそれがある。妊婦9.5妊婦又は妊娠している危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

